

磐城時報

編輯者 石城郡平町新田十四
印刷者 石城郡平町新田十四
發行所 石城郡平町新田十四
電話 一四四
代金 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
廣告料 一行一十字日金五十字
日刊 (日曜 祭日 休刊)

失業者の群

平紹介所に殺到

半ヶ月で七十一名
實に開所以來の記録

職業紹介所の十二月は大都會なで半月の成績を聞き驚くべきなからいざ知らず地方においては一求職者は男女合計七十一人と年を通じて一番閑散でありまたいふ多きに達し開所以來の数字統計の上から見ると出入りの最を示してゐる、右について四家も激しい四五月の半分である主任は

にも拘らず大小炭礦並に漁村を控へてゐる平職業紹介所はまるつ切りこれと正反對、昨今は一切のパンでもよいかから得やうとする歳末失業者の群で門前は市をなすの盛況、所員は全く面喰らつて居り殊にこうした求職者の中には東京方面から職にあふれて流れ込んで来たなどいふ者もあつて奇現象を呈してゐると困憊相に語つてゐるが實際職

が現に十六日の如きは東京市を得られぬ多くの失業者の群は、若い大工さんなども、假に同所では各紹介と連絡所を同所について一日から十五日まで救済の途を講じてゐる。

如何に歳末と言へ僅か半月のうちに従來の一ヶ月分に相する求職者の群が尋ね来るなど、は全く珍らしい、これは要するに経済緊縮の結果から俄かに失業者が増へたものと思はれる、當所管内の各炭礦は何れも使役止めであるからこうした失業者の救済には年内だけに困難を感じて居る云々。

石城郡夏井小學校訓導(四八)に支給されるが今年に緊縮の祟り特に名を私すは二十二日午後四時頃平町大工町飲食店石堂ウ見られて居るも町當局では年一メ方で酒四本と天ブラ一皿を飲回りの賞典だから減額などは絶対食し一圓十五錢を請求されたがにせぬ方針だと語つてゐる。

一圓にまげると値切り結局まげられぬので憤慨し女將及び女中を毆打して亂暴したので平署の取調べをうけた。

平町のボーナス
減額はせぬ
平町立各學校職員、水道課員一般吏員等約百二十名に對する七時頃發火し機械室その他を全焼し殆んど使用し得ざる程度

平町常磐銀行平支店では一丁目産が無いので結局明智氏一人が仙臺屋呉服店事明智氏外二支拂はねばならぬ破目に陥つた名の保證で平町某銀行に金一萬と傳へられてゐる。

平町常磐銀行側の勝訴となつたが明智氏以外の保證人は財跡磐城立憲新報社小泉宗雄氏は年末賞與は來る二十六日頃一齊

飯野村の火事

提灯の置き忘れから

石城郡飯野村大字吉野谷字館下ある為め組合側では幹部會を召集し女給が酌を廢される事は死活問題であるからとの理由から酌婦の免許を受ける事に決定平署當局に此旨届出ると共に女給連の緩和策として酌婦鑑札に特ため死亡した。

平外二名は二十二日午後六時頃平町白銀町西洋料理店金春方で飲酒し泥酔した上街路で三名が泥まみれとなつて喧嘩してゐる處を平署巡査に発見され検束された。

天候のため夫婦別れ
専門の技術者さへも不順極まる最近の天候にはサジを投げ出す程であるが、この變調的天候に禍されて石城郡小名濱町地方は一日福島署に出頭して石城郡植田町字小濱丹野丹馬内縁の妻縁をなす者が續出して到底涙なし川シゲ(四〇)が過般家出福島市には聞かれぬ悲惨事が各所に醸されてゐる……といふことは元來同地方は漁村でありながら農自ら捜査方を願ひ出したので同署業にも主きをなし殊に西瓜、澤では直に大原病院に問ひ合せた庵、大根等は主要物産の一つが當該者は無かつたが更に市内に潜伏してゐるらしいので續いて捜査方を依頼する處あつたが縣會議員までが乗り出した捜査願ひだけに裏面には複雑した事情があるらしいと各方面では注目してゐる。

驚縣議が
石城郡飯野村消防組小頭山崎孝入りて天候不良の結果から漁はますます悪く最後の澤庵大根まで乾燥不良で殆んど全部は腐敗しそれがために生活の途は全く断たれて前記の如く悲しむべき運命に陥つたものである……といふが町當局では容易ならざる問題として目下善後策に腐心してゐる。

泥まみれの喧嘩
消防小頭が

酌婦鑑札
平町内各所に散在するカフェー、バー等の女給連が盛んに風紀を亂してゐるので平署では此方面に取締の手を延べてゐる事は既報の如くであるが、當局の嚴重な取締の結果女給が客にビールや酒を注ぐ事も違法であるとして告發されてゐる為め當業者連は何れも大恐慌でこの嚴重な取締が永久に續くも必然的なものであると言ふので同町西洋料理業組合では此の善處策に就いて子々協議を進めてゐるが當局の態度が依然強硬で

大成丸焼く
船室の揮發油に引火
三萬余圓を投じた巨船

石城郡江名町信用組合所有船大損害を蒙つたが、發火原因を調べて成丸は江名築港内に繋留してお置いた處、炊事の残火が揮發油引火したためである、同船は三年前三萬余圓を投じて建造した四十馬力の巨船で損害も莫大

拒まれた十五錢を値切り
飲食代十五錢を値切り
拒まれた十五錢を値切り
飛んだ小學校訓導

馬鹿を見た明智氏
一萬圓の保証をして

小泉氏去平
平町舊城

金融を種に 娘を引き出す

宿屋で暴行

石城郡錦村大字大倉根本祐治(四二)は去る十六日同村竹細工商竹田二郎に對して金を貸すと稱して二郎の長女ハナ(一六假名)を伴ひ自宅に行かず其まゝ勿來町に至り金は明日にならねば駄目と稱してハナを同町里見屋旅館につれ込んで暴力を以て凌辱を加へ情を通じたこと二郎の知る處となり憤慨し植田署に告訴を提起し祐治を捜査中の處廿日茨城縣で逮捕取調中である。

上田氏夫人逝く

町南町上田外科醫院上田耕作氏輝子夫人は病氣中の處二十一日午後八時死去した。葬儀は二十三日正午自宅で神式によつて行ふ筈である。

不景氣禮讚

片々子生

三百何十枚かのカレンダーが刺がしつゝされて昭和四年も残り少なくなつた、今何枚かをめぐりつゝせば昭和九年が来る、千九百三十年といふ年に改まる。

いつの歳だつて大したことはない、吾々には年が改まつたつて何の感興も別段湧かない何の感興も湧かない代りに年の暮が来たからといつて殊更にじたばたする必要もない。馬鹿々々しいではないか、年が暮れやうが正月が来やうがじたばたしなければ生きてゆけない譯もないだらう、不景氣だ不景氣だと泣いてゐるが吾々の家庭の不景氣は敢て今

年に初まつたわけではない。去年の暮より今年の暮が殊更にくるしいといふこともない。矢張り三度づつのは飯は自分も喰ひ一家眷族にも喰はせて着せて置く、これ以上何ものかを要求しない限り人並に今年じみたことをいふ必要もない。

一体世間のどこが不景氣なんだ、而して世間の何處に不景氣でないところがあるのだ。黄金の洪水が浪打つてゐるといふ米國へ行つたら往來に札束が轉がつてゐるかといふに必ずしもさうではないといふ話だ。

電話水道附 商店向貸家

(家賃十七圓) 平町字新川町三十番地

平町新川町

中野勇吉 電話一三三番

電話一三三番

何處の國へ行つたつて不景氣は押して何へ行くことだ、大體人間生活といふものゝそれが既に不景氣に出来あがつてゐるのだ、宗教家が精神生活を説き詩人が所謂心の生活を説き殊勝らしいことを並べて見たところで彼等自身が既に喰はなければ生きて行けないといふ運命の不仕合せをどうすることも出来ないか。

詩人や宗教家ですら人間生活から逃れることが出来ないのだ、それは恰度吾々の一生から不景氣が離れないのと同じやうに……不景氣をくにする人間は馬鹿だ。平凡に馴れて人生にならず五花村の方が宗教家よりも詩人よりも遙に超然としてゐる

例年の通り

新年の通りはがき
回文字ハガキ
回クリスマスカード
回カレンダ
回カルタ、トランプ
回常用日記、懐中日記
尋當に取揃へました
マルトモ 柴田書店
電話(二三四番 九〇五番)

腸胃	内科 専門
梅毒	皮膚病 専門

腸胃科 腸胃病 胃性病 腸胃病
皮膚科 皮膚病 淋病 婦人病
院 醫 科 村 松
(七〇一話電 町南平)

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・ブランク・白 1.10
マルソー・ルージュ・赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

驚いた!!!
こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物
鼻の薬「チクノール」
平五 山野邊藥局

御挨拶

私事十余年間平町の御厄介になり磐城立憲新報を経営致して居りましたが、今回家事都合により郷里石城郡玉川村大字林城の實家に戻る事になり二十五日平町を引上る豫定です、茲に畧儀乍ら紙上を以て今日までの御厚意の御禮旁々御挨拶申し上げます
磐城立憲新報
小泉宗雄

東家燕左衛門師

外眞打連數名出演
◎當る二十四日午後五時花火合圖開演
今回興行に限り割引券發行せず
緊縮・金解禁につき
入場料 破格の大人三十錢 小入十五錢
館樂聚 番〇七四話電

新妻眼科醫院

入院應需 ◆看護婦一名至急募集
平町字紺屋町

耳鼻咽喉科

平町仲田町七一

新築 津醫院

電話五五九番

液体空氣會社製(酸素含有量九五分中)
(東京工業試驗所長證明)
吸入用酸素酸素吸入器
正確体温器寒暖計
特約店 開内藥局
電話四〇番

一葉印刷所

平町字仲田町
電話七三四番

荊妻輝子儀豫テ病氣ノ處藥石効無ク二十一日午後八時死去仕候間此段御通知申上候
追而來ル二十三日正午自宅ニ於テ神式ヲ以テ告別式執行可仕候
石城郡平町南町

親戚總代 上田耕作
全代 大田重雄
友人總代 合津重世

故妻かめ送葬の際に遠路態々御會葬被下且御鄭重なる御香奠を賜り有難く御禮申上候先は乍畧儀以紙上御挨拶申上候
昭和四年十二月二十三日
小野澤彌三郎
外親戚一同